

かみ^市報^報くおか

昭和61年11月1日発行(通巻404号)

編集と発行 - 上福岡市役所(☎02611)

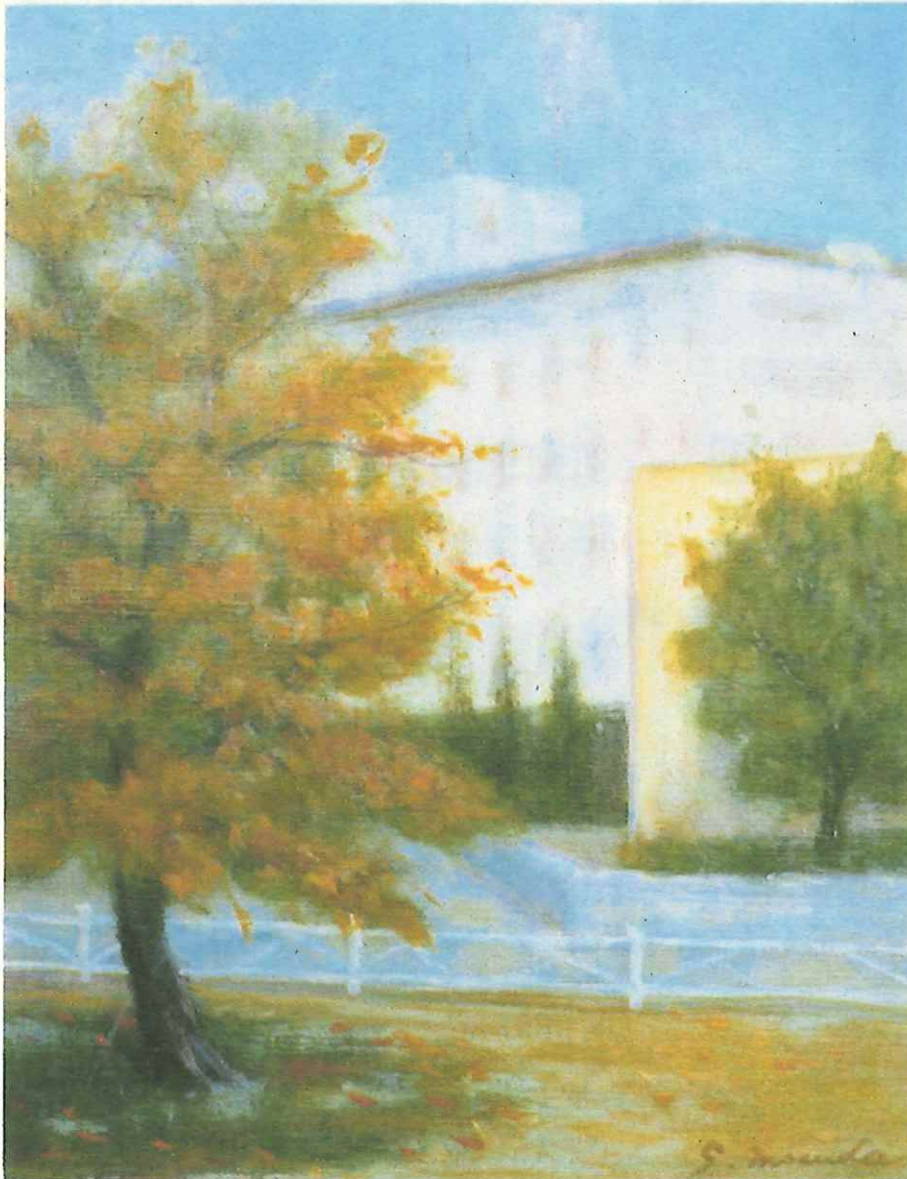
86 11

上福岡の四季

上福岡市庁舎

増田節子

(上福岡市絵画連盟会員)



仲間を後に 一人家路につく――。
明りの入った庁舎を背に 暮れなずむ街角
すれ違う人々は みんな足ばや
晩秋の風が ひんやりと肌をなて
どこからか 秋刀魚の匂いを運んでくる。

八百屋に溢れる 季節の輝き
ふと幼い日の山栗の味をなつかしむ。
見上げれば 釣るべ落としの秋の日は
秩父の嶺に沈んでいた。

作文の会 “まど、福岡チエ

第二小学校を見学するベンビнда・ツレさん(右)とエウラリア・モンドラレーネさん(左)



モザンビークから 二少女が上福岡に 高島滋子さん宅で生活

深刻な干ばつと飢餓に苦しむ
アフリカのモザンビークから、
医師と看護婦をめざす二人の少
女が九月二十七日、高島滋子さ
ん(整形外科医)Ⅱ大原2-3
-18の里子として上福岡にや
つてきました。

少女はベンビнда・ツレさん
とエウラリア・モンドラレー
さんで、同じ十三歳。昨年八月
に外務省所轄の国際救急チーム
の登録医としてアフリカに渡っ
た高島さんが、飢餓の中、栄養
失調で死んでいく子ども達の姿
に心を痛め、「医師、看護婦志
望の子どもを引き取って勉強さ
せたい」と今年八月に再び同国
を訪れ、モザンビーク友好協会



高島さんと共に田中市長を表敬訪問

の紹介で四年間、二人の面倒を
みることになりました。
二人は、上福岡で勉強するた
め、十月一日に第二小学校と第
二中学校を見学。はじめは緊張
ぎみでしたが、子どもたちに囲
まれると、しだいにリラックス

し、音楽の授業では一緒に楽器
を鳴らして楽しそうでした。
そのあと第二小学校に編入し、
十月十六日から五年生のクラス
で毎日元気に勉強しています。
また二人は、田中市長を訪問
し、「お互いに戦争のない平和
のために頑張りましょう」と書
かれたケリマン市長などからの
メッセージを手渡し、田中市長
から「早く言葉を覚え、こちら
の生活に早く慣れるよう頑張り
てください」と励まされました。
生まれ育った国をあとにし、
生活も習慣も違う遠い異国の地
で、力いっぱい生きようとして
いる二人を、みんなで応援して
やってください。

勇気ある英断

市長 田中 喜三

人の背だけほどにまで伸びたコ
スモスが無造作に風に揺られ、は
かなげに咲いている風情は、何と
も、いと美しい限りである。
春の花は南から北上するが、コ
スモスは北の方から
順に咲いていく。
はるかな外国(メ
キシコ)生まれのく
せに、これほどまで
に日本の秋空に調和する花もめず
らしい。はるかな外国といえは、
いま、アフリカ大陸の南部、モザ
ンビーク人民共和国から、十三歳
になる二人の女の子が、この上福

岡市に移り住んでいる。すでに、
新聞報道などでもご存知のとおり、
市内で整形外科医を開業している
高島滋子医師が、二年來、深刻な
干ばつや飢餓に苦しむアフリカで

以前、この欄でアフリカの飢餓
砂漠について触れたが、モザンビ
ークでのその実態は、想像を絶す
る飢餓と物質の欠乏に人々はあえ
ぎ苦しみ続けているという。そう
した厳しい環境の中
から一転して、まる
で異なる地での生活
の二人。一方、これ
からの四年間、医療

療奉仕活動に限らず、数十年來に
わたる原爆乙女の治療、難民救済
活動を通じて、「医療の前には、す
べての人が平等でなくてはならな
い」「全世界が平和でなくてはなら
ない」という人間として、医師とし
ての使命が、今回の里親としての
実現に踏み切らせたのであろう。
「ちみつな性格であったなら、
こんなことはできなかったであらう。
うね」と語っていたが、ちみつな
性格であればこそ成せる業。
きのうから、二人そろって第二
小学校へ編入、本格的勉強に入っ
た。
(十月十七日記)